

時の動き

「日米同盟強化」は時代に逆行する道！

日朝国交正常化で東アジアに平和を！

東京全労協副議長 中原 純子

日朝婦人の集い40周年

東京・荒川区には幼稚園も併設する朝鮮第一初級中級学校があります。また、私が二十間暮らした三河島駅近くは、まるで小さなコリアンタウンのように焼肉屋や朝鮮マーケット等が点在して、キムチや胡麻油が日々の生活に根ざした街です。

その荒川区で1977年に発足した荒川日朝婦人の集いは昨年四十周年を迎えました。草の根の交流を続ける日朝婦人の集いが十年毎に発行してきた記念誌には、日本と朝鮮の女性たちが手探りで交流を重ねながら信頼を築き、折々に起きた問題の解決に努めてきた

苦勞がにじんでいます。女性たちは、

学習会で国際情勢や社会問題について学び、また、料理講習会や朝鮮映画の上映会等で互いの文化に触れ合い、時には一世のオモニからお話をお聞きして親睦を深め友情を培ってきました。

私は準備会から参加してきた世話人の一人です。朝鮮問題をわかりやすく伝えるにはどうしたら良いか話し合い、三人の子どもたちも一緒に例会や毎年欠かさず開催してきた新年会の準備に参加してきました。このように地域で交流をつづける日朝の女性たちは、国交を、統一を、平和を、と願ってきました。

緊張する朝鮮半島をめぐる情勢

しかし、四十周年をお祝いした昨年は、米国の衰退と中国の台頭により戦後作られた世界の力関係が大きく変化するなか、朝鮮半島をめぐる情勢がいつそう緊張する年となりました。安倍政権やマスコミ、また野党も、この原因を朝鮮の「核・ミサイル」として、「制裁強化」を呼びかける点ではほぼ共通しています。私たちは四十年間の活動の中でマスコミ報道を鵜呑みにしないで、自ら問い直して事実を知らなければならぬこと、世界の動きが私たちの日々の生活に影響を及ぼしていることを学びました。



荒川日朝婦人の集い結成40周年を祝う会

安倍とトランプの狙いは何か
 はたして、トランプと安倍政権が主張しマスコミが「朝鮮半島有事」を煽り、Jアラートで「物陰に隠れる」とか「地下に避難する」等の指示を行い、まるで日本が攻撃されるかのような騒ぎを演出している狙いは何なのでしよう。

1953年以来、休戦状態にすぎない朝鮮戦争が完全に終結し、さらに分断された二つの国が統一することは米国の利益にはなりません。米国こそ、朝鮮半島の緊張状態が持続することを望んでおり、現在の「準戦時状態」を解消することはないでしょう。その狙いは、アジア太平洋における覇権体制を維持することにあります。1990年前後までは、そのための仮想敵はソ連でした。いま米国にとって、急速に台頭する中国を意識して、アジアでの軍事的な存在感を確保しなければならず、朝鮮半島における緊張状態が続くことが必要ということです。米国の朝鮮敵視政策こそが、東アジアと朝鮮半島をめぐる情勢を緊張させる元凶であることを指摘しなければなりません。

日米同盟強化反対

朝鮮への制裁強化反対

また、日米同盟強化を外交の基軸と

し米国に従属して改憲を狙う安倍政権は、朝鮮を「悪者」にしたて、拉致問題を政治利用しながら、朝鮮「脅威」論を国民に都合良く受け入れさせています。さらに、安倍政権は米国の先兵となり、欧州やアジアなど世界中で朝鮮への敵視を煽り、制裁強化を呼びかけています。国内ではJアラートや自治体での避難訓練による戦時体制づくりを進め、軍事大国化と日米の軍事一体化を強化しています。

分断された朝鮮に責任がある日本こそ朝鮮への制裁強化に反対し、制裁から対話へ、日朝の即時・無条件の国交正常化を実現しなければなりません。安倍政権を打倒し、世界の動きに逆行する日米同盟強化の日本の進路を転換させましょう。

(注) 朝鮮民主主義人民共和国を朝鮮と表記しました。

(なかはら じゅんこ)